

小屋裏（ロフト）用の天井収納式はしご部品の入力方法

文書管理番号：1165-02

Q. 質問

小屋裏やロフトに上がるための天井収納式はしごを、パースで表現したい。
小屋裏収納用はしご部品の入力方法を知りたい。

A. 回答

天井収納式のはしごを表現する場合は、内観部品の「小屋裏収納用はしご」を利用します。
ここでは、小屋裏収納用はしご部品を配置し、パースに表現する方法を説明します。



操作手順

ここでは、以下のような部屋に小屋裏収納用はしごを配置します。

- * 間取りは簡略化してあります。
- * 各階の床高・天井高を、以下のように設定します。



【参考】

A's (エース) では、上階の床高を下げたとき、下階の天井との懐高さを 300mm 確保する処理が働きます。

懐高さが 300mm に満たない場合は、自動的に下階の天井高を下げるため、下がってしまった天井高は (天井伏図) で高さを修正する必要があります。

例) 懐高さが 300mm に満たない場合

1 階 FL から軒高までの高さ : 2970mm

小屋裏階の床高 : -350mm

1 階の天井高 : 2400mm

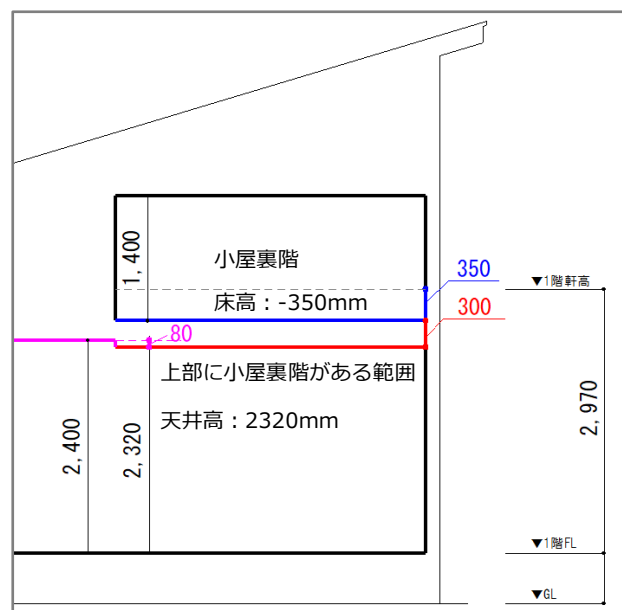
懐高さを 300mm 設けると、1 階の天井高は、

$$2970 - 350 - 300 = 2320\text{mm}$$

となり、下階の天井高が

$$2400 - 2320 = 80\text{mm}$$

低くなるため、上部に小屋裏階がある範囲とない範囲とで天井高が異なります。



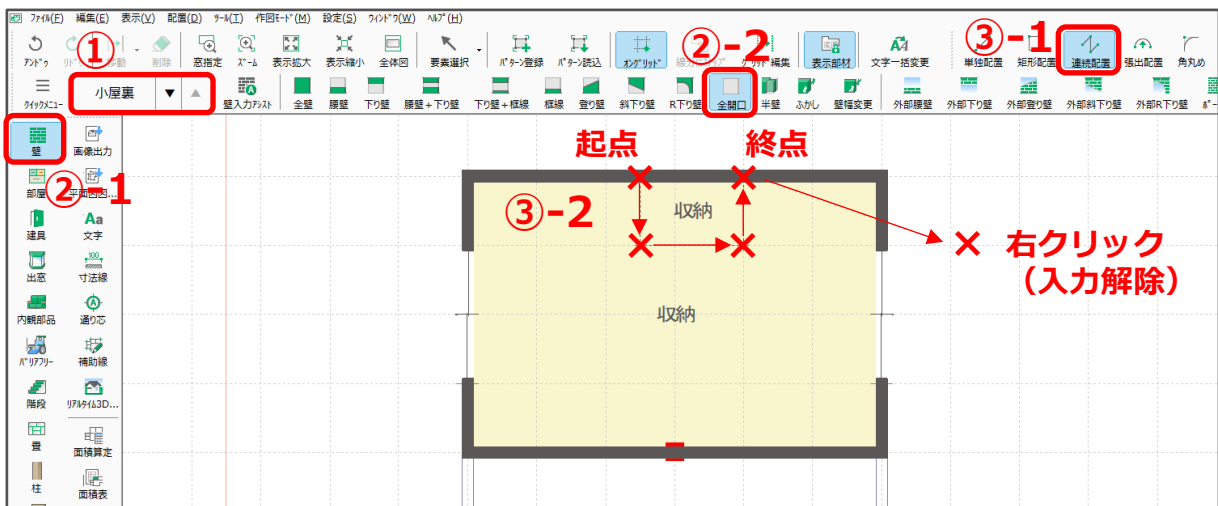
● 上階で「吹抜」区画を作成

① (プラン図)で小屋裏を表示

② (壁)の (全開口)をクリック

③ (連続配置)をクリックし、小屋裏収納用はしごを配置する範囲を区切る

* 壁芯で 910mm×1365mm の区画になるように、全開口を入力します。



* 収納の部屋が 2 つに分かれ、小屋裏収納用はしごを配置する区画ができます。

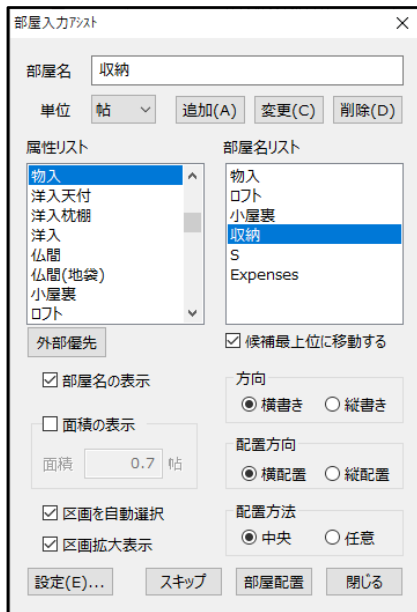
④ (要素選択)で、小屋裏収納用はしごを配置する部屋をクリック

* クリックした部屋が選択され、赤くなります。

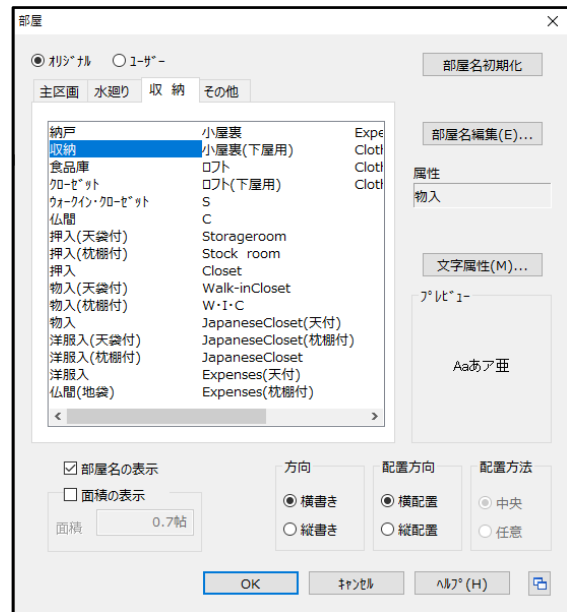
⑤ 右クリックメニューの「部屋名変更」をクリック



- * 収納を設定した際に使用した部屋名選択画面が表示されます。



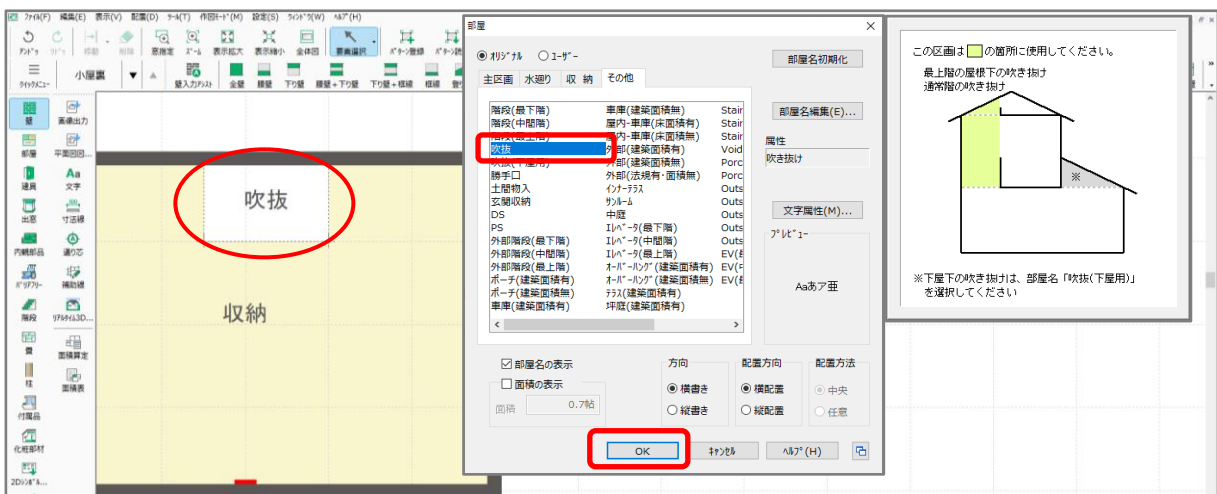
「部屋入力アシスト」で部屋名を配置する場合



「部屋」で部屋名を配置する場合

⑥ 部屋名を「吹抜」に変更し、「OK」をクリック

- * 小屋裏収納用はしごを配置する区画が「吹抜」になります。



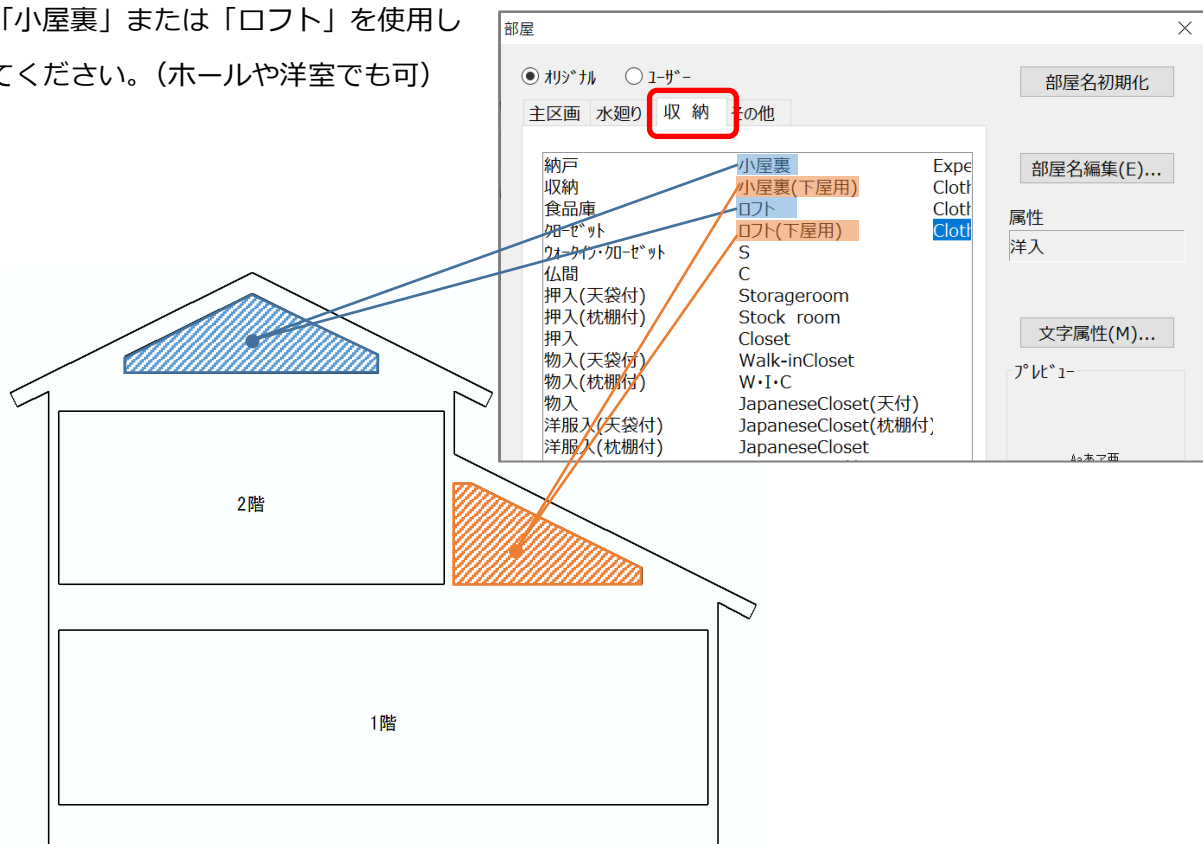
- * 吹抜区画に設定後、床高・天井高を任意に変更してください。

ここでは、収納区画と合わせて「床高：-350mm、天井高：1400mm」とします。

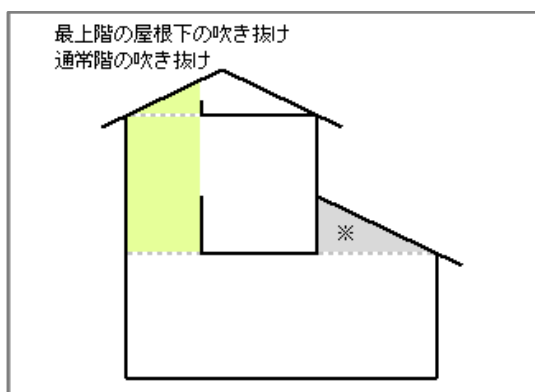
【注意】 部屋設定の小屋裏(下屋用)・ロフト(下屋用)

最上階の屋根下にあたる、小屋裏の階層に部屋を設定する際は、「小屋裏(下屋用)」、「ロフト(下屋用)」は使用しません。

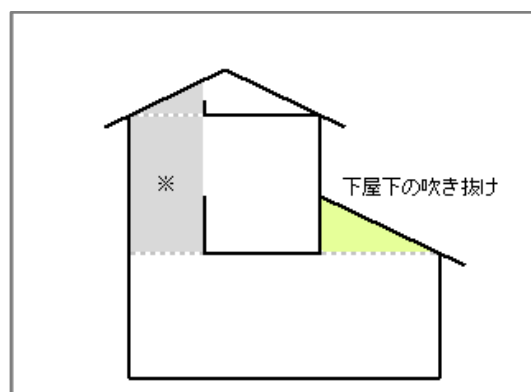
「小屋裏」または「ロフト」を使用してください。(ホールや洋室でも可)



- * 「小屋裏(下屋用)」「ロフト(下屋用)」は下屋裏に設ける部屋に使用します。
- * 「吹抜」「吹抜(下屋用)」についても同様です。部屋名をクリックした際に表示される図もご参照ください。



「吹抜」で配置する場合

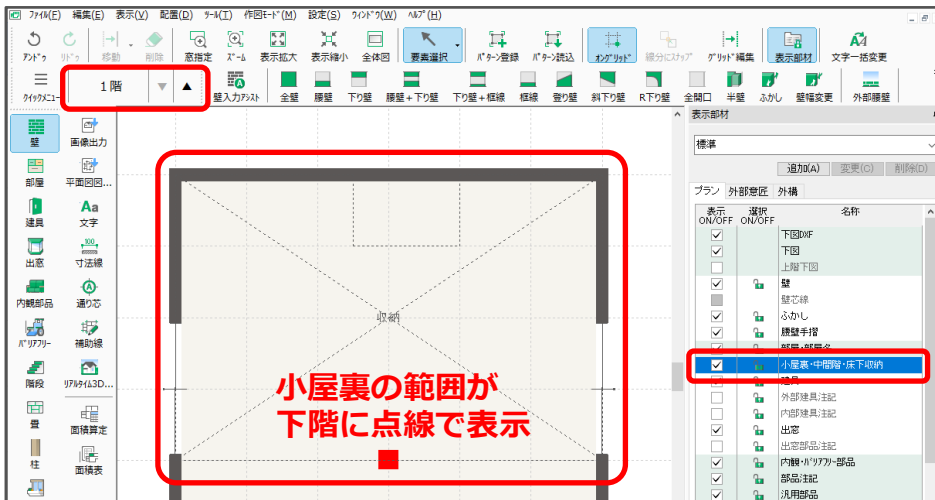


「吹抜(下屋用)」で配置する場合

● 下階で小屋裏収納用はしご部品を配置

① 1階を表示

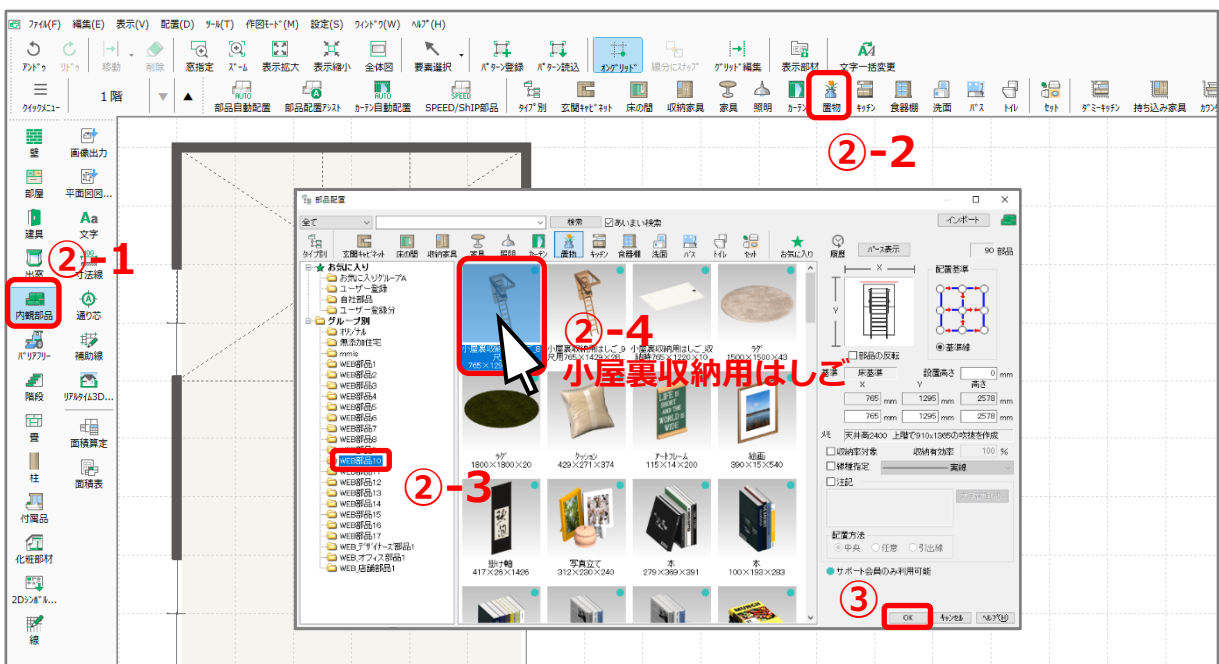
* 小屋裏に配置した部屋が、小屋裏範囲として点線で表示されます。



② (内観部品) ⇒ (置物) ⇒ 「Web 部品 10」 ⇒ 「小屋裏収納用はしご_8尺用」を選択

* WEB 部品は、サポート会員の方のみご利用いただけます。

* 設定内容は初期値のままです。

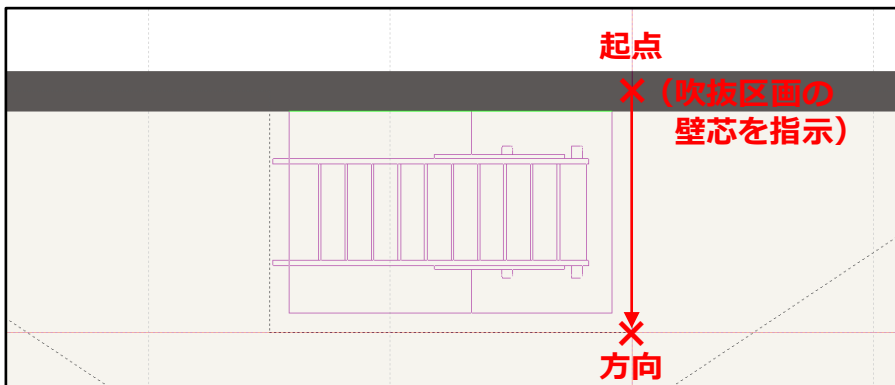


③ 「OK」をクリック

* 小屋裏収納用はしごのサムネイル画像で、左上にあたる位置にマウスがスナップした状態で、部品の平面表現がラバーバンドで表示されます。

④ 小屋裏の吹抜区画の線に合わせて、起点—方向を指示

* 部品配置時の起点は、壁芯を指示します。

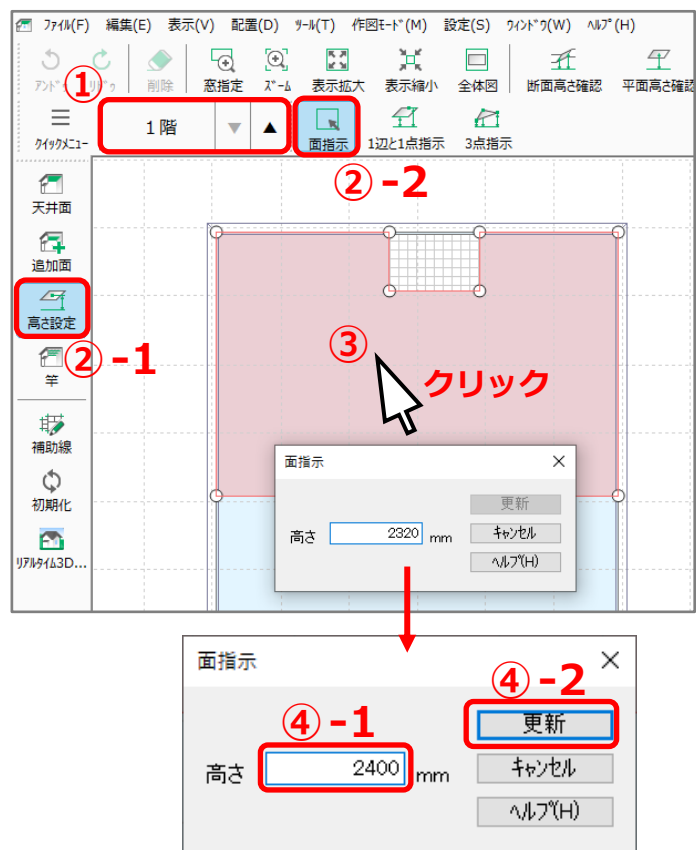



* 小屋裏収納用はしごの部品が配置されます。

● 天井伏図の操作



ここでは、上階の床高を下げたとき、下階の天井との懐高さを 300mm 確保する処理が働くため、1 階の天井高が 2320mm になっているため、 (天井伏図)で天井高を 2400mm に修正します。上階の床の影響を受けず、天井高に変わりがなければ、天井伏図での操作は不要です。

- ① (天井伏図)で 1 階を表示
- ② (高さ設定)の (面指示)をクリック
- ③ 上階に小屋裏階がある範囲をクリック
 - * 面指示の画面が表示されます。
- ④ 高さを「2400」mm に設定し、「更新」をクリック
 - * 上階に小屋裏階がある範囲の天井高が、懐高さが反映される前の高さになりました。



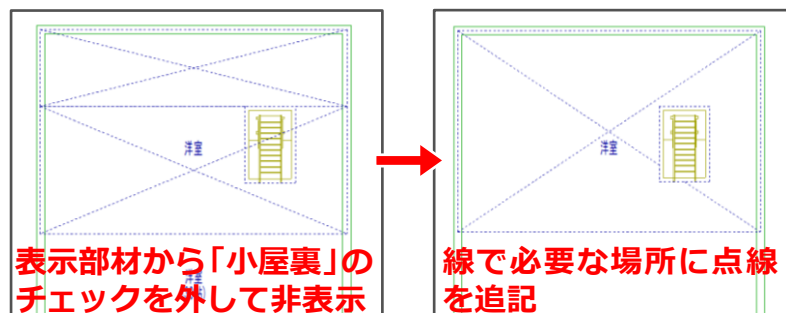
⑤  (3D パース)で確認

【参考】

プラン図で、 (画像出力)や (平面図図面出力)を実行した場合、間取りによっては小屋裏範囲線が分かれたり、形状に合わないことがあります。

その場合は、表示されている

「小屋裏範囲線」を表示部材で非表示にし、必要な線を汎用線で追記してください。

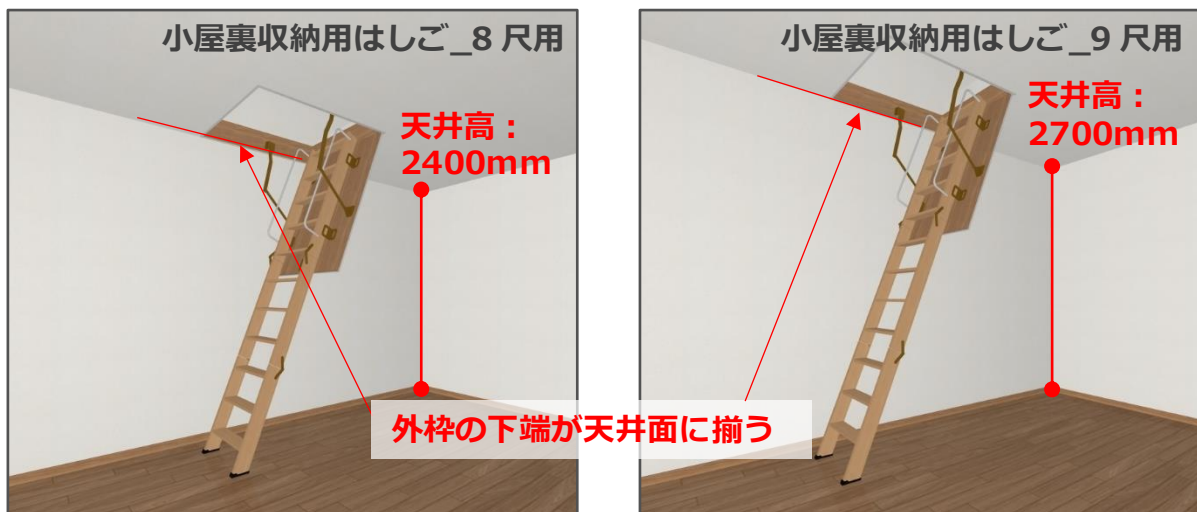


参考：小屋裏収納用はしご部品

● 「8尺用」と「9尺用」の違い

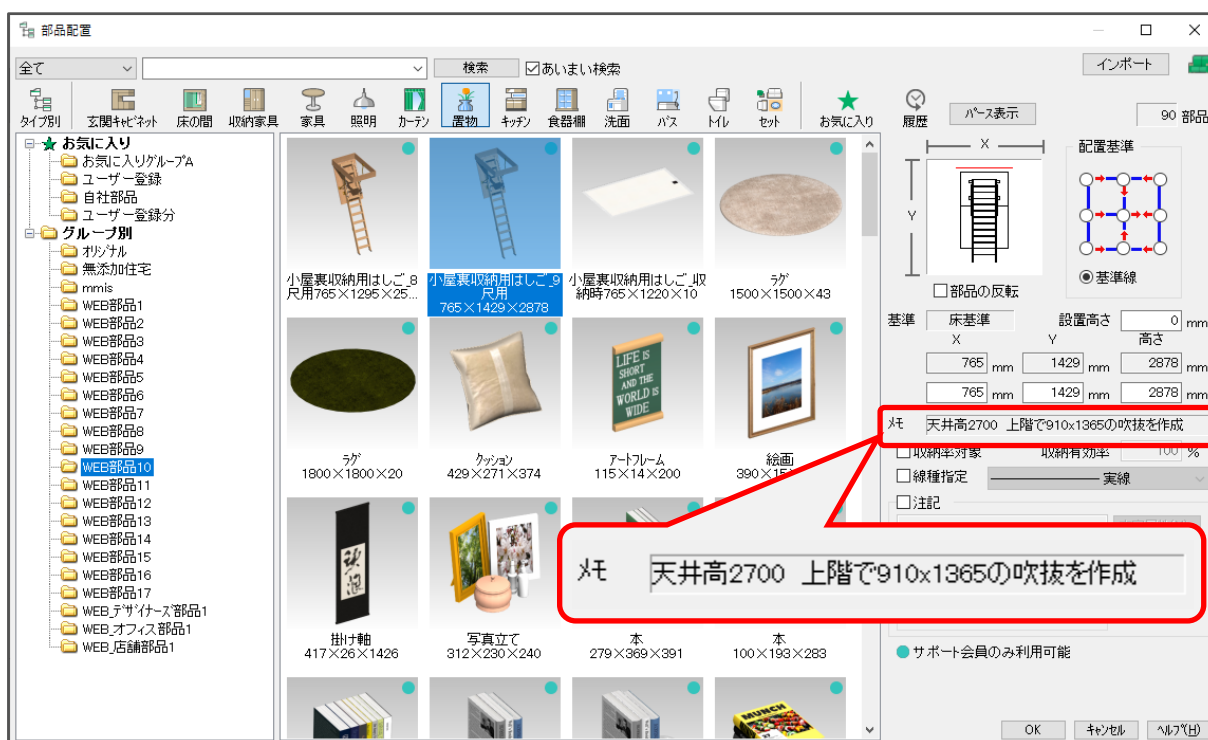
小屋裏収納用はしご部品には、「8尺用」と「9尺用」の2種類あります。

「8尺用」は天井高が2400mm、「9尺用」は天井高が2700mmの場合に、小屋裏収納用はしごの外枠下端が、天井面に揃うようになっています。




また、小屋裏収納用はしごを初期値で配置する際、「8尺用」および「9尺用」どちらの場合も、上階に作成する吹抜区画の大きさは「910mm×1365mm」とします。



* 部品配置から、小屋裏収納用はしごを選択すると、メモ欄にも記載されています。




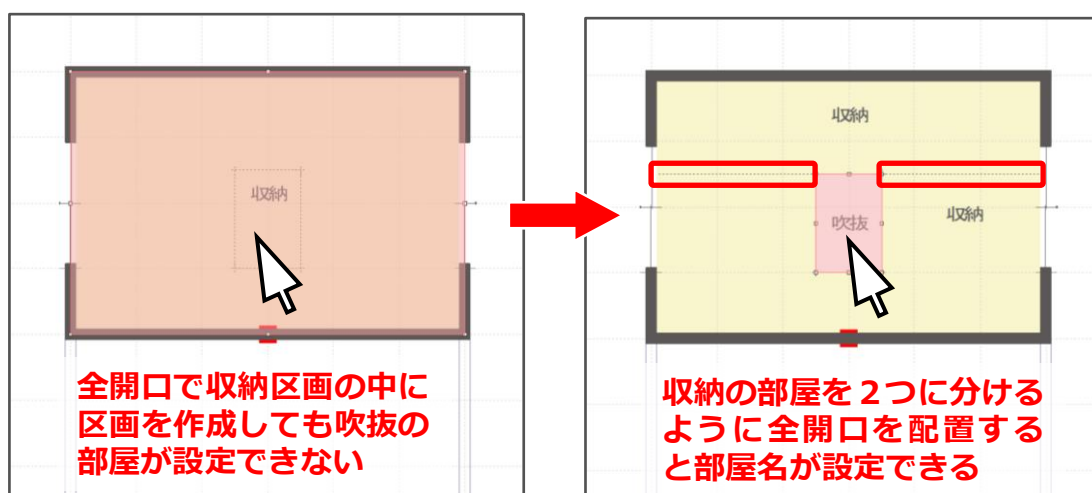
- 壁の厚みについて

壁の厚みは、 (物件概要)の「建物仕様 3/4」で設定する壁・柱の初期値「既定値 (壁厚み 105mm、柱サイズ 105mm)」を基準としています。壁厚を変更している場合は、必要に応じて部品サイズを調整してください。

- 部品を配置する位置について

小屋裏収納用はしご部品の、部屋内のどの壁とも接しない箇所に配置する場合、上階で区画の中に部品を配置する区画を  (壁)の  (全開口)で作成しても、部屋名が設定できません。

このような場合は、 (全開口)で部品を配置する区画の壁と周囲の部屋の壁を 2 か所つなぎ、周囲の部屋を 2 つに分けると、吹抜の部屋名が設定できるようになります。



区画の中に区画（ドーナツ型の中心になる区画）を作成する場合の詳しい入力方法については、こちらをご覧ください。

[\[1061\] ドーナツ型区画の部屋名設定](#)